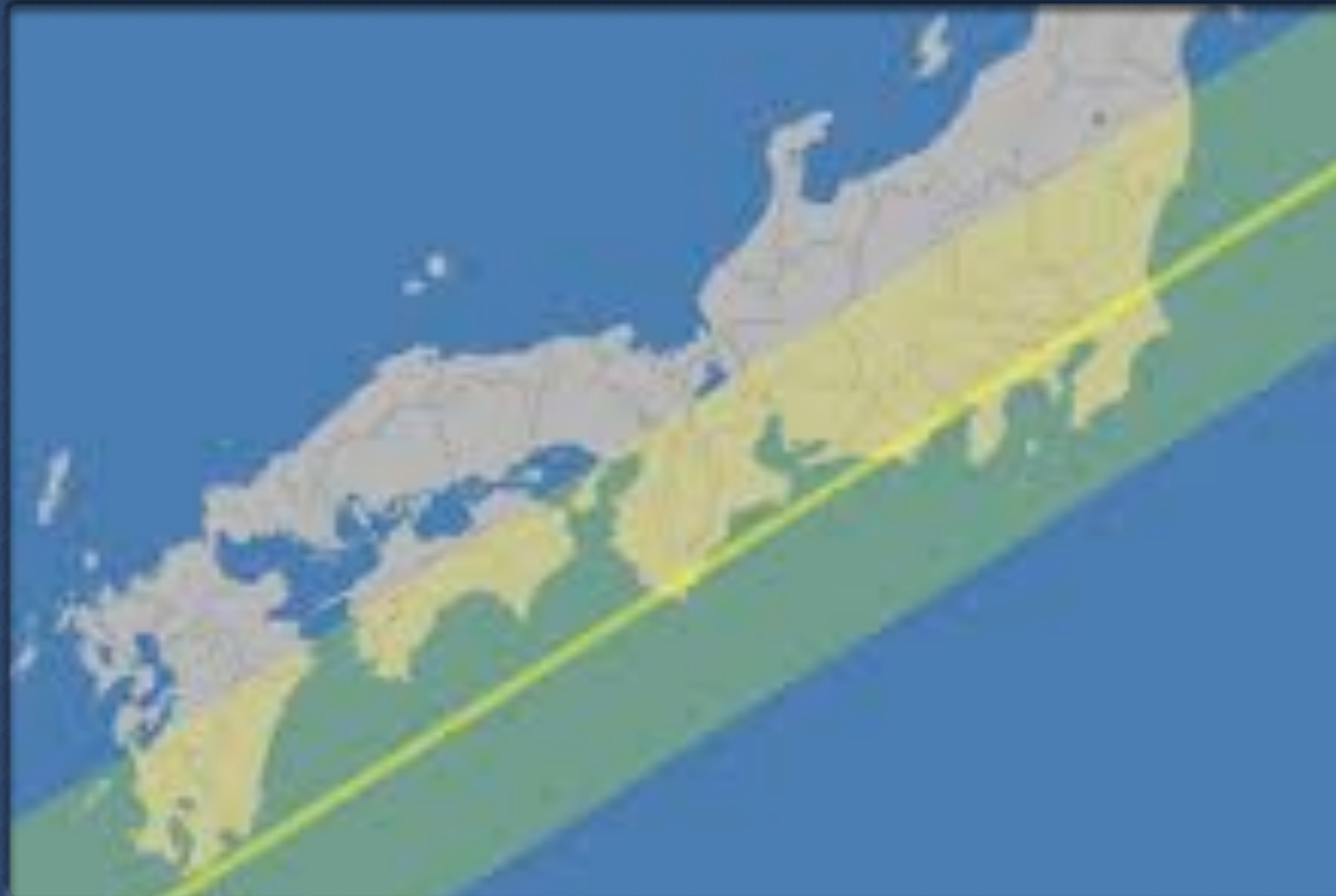


切迫流産の治療





流產

自然流產、人工流產

早期流產(12w未滿)、後期流產(12w-22w未滿)

切迫流產、進行流產、稽留流產

完全流產、不完全流產

感染流產

化学流產

反復流產、習慣流產



切迫流産

流産への移行状態であるとともに、正常妊娠への復帰が可能である状態

妊娠12週未満流産の50-60%に胎児染色体異常



『産婦人科研修の必修知識2011』

①安静

②薬物療法

16週以後で子宮収縮があれば子宮収縮抑制剤(塩酸リトドリン)の投与

③感染の診断治療

腔炎や頸管炎により絨毛羊膜炎を生じ子宮収縮が起こるため早期に感染の診断治療が必要



『産婦人科診療ガイドライン産科編2011』

- ①胎児心拍が確認できない場合、ごく初期の妊娠、稽留流産、異所性妊娠、不全流産、進行流産、絨毛性疾患なども想定する。(B)勧められる
- ②流産予防効果が確立された薬物療法は存在しないと認識する。(B)勧められる
- ③胎児心拍確認後に絨毛膜下血腫を認める場合には、安静療法が有効である可能性があるとして認識する。(C)考慮される



『UpToDate』

- ①黄体療法は有効
- ②ビタミンや子宮収縮抑制薬の有効性は認められない
- ③ベッド上安静のRCTによるエビデンスはないが有効である可能性がある



黄体療法

唯一の I aエビデンスある治療法

4つのRCTのメタアナリシス(total421例)

経口、経腔、いずれも有効

経腔 : Crinone(ジェル製剤 90mg)1T1x5日

催奇形率の上昇みとめられない

Cochrane Database Syst Rev 2011; :CD005943.

Effects of Vaginal Progesterone on Pain and Uterine
Contractility in Patients with Threatened Abortion before
Twelve Weeks of Pregnancy

切迫流産の診断後5日間挿腔

鎮痛と子宮収縮抑制に有効

妊娠予後の改善に有効



安静・その他薬物

安静療法、性交禁止の有効性は認められない。

Cochrane Database syst Rev 2005; :CD003576

「SCH(+)¹の切迫早産」にベッド上安静が有効であったという報告はある。

230人にベッド上安静を指示、従った200人中13人(6.5%)が流産となり、従わなかった30人中7人(23.3%)が流産となった。

hCG、子宮収縮抑制剤、ビタミンの有効性は認められない。

Cochrane Database Syst Rev 2010; :CD007422.

Cochrane Database Syst Rev 2005; :CD002857.

Cochrane Database Syst Rev 2011; :CD004073.

健康保険適応薬剤

①子宮収縮抑制 tocolysis

ダクチル(50mg)3T3x~4T4x

(piperidolate hydrochloride)

(3級アミン合成の抗コリン薬)

抗コリン作用、平滑筋収縮抑制

胃炎、胃潰瘍、胆嚢炎、切迫流産早産

エビデンス

piperidolat

切迫流早産132例に対するRCT

「下腹緊満感改善あるが流早産予防効果はなし」

産婦治療 1975; 31: 101-114



健康保険適応薬剤

②黄体機能補充 luteal support

- ・黄体ホルモン

プロベラ,ヒスロン(2.5-5.0mg)3T3x

プロゲステロン注(50mg)1回im/day

(medroxyprogesterone)

- ・hCG

hCG筋注(5000u) im/day



非保険適応薬剤

①止血剤

アドナ

Carbazochrome sodium sulfonate hydrate

毛細血管に作用して血管透過性亢進を抑制し、血管抵抗値を増強することにより出血時間を短縮し、止血作用を示す。

トランサミン

Tranexamic acid

種々の出血症状などに関与するプラスミンの働きをおさえ(線溶抑制)、抗出血・抗炎症作用を示す。

エビデンス

いずれも自覚症状改善、流産予防のエビデンスは少ない。



切迫流産の治療

- ・薬物療法による流産予防方法がなく、むしろ安静が有効である可能性があることから、軽度の切迫流産徴候では救急受診の必要はない。
- ・あらかじめ軽度の腹痛、軽度の出血(月経と同等以下)なら、翌日あるいは検診予定日に受診するよう妊娠初期に説明しておく。
- ・Progesteroneによる黄体療法は、I aエビデンスと保険適応があり考慮される。